

科目名 日常生活援助技術Ⅲ	配当時期 1 年次後期	講義担当者	
時間割表記名 日常生活援助技術Ⅲ (排泄)(酸素・吸引)	単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	筒井 雅子 (実務経験のある教員)	
事前学習内容 演習前にはテキストの動画を視聴する。 技術演習前には、テキストと動画を活用し、技術の根拠を含めた手順をレポートにまとめる。			
授業目標 1. 人間の排泄の機能を理解したうえで、排泄に関わる援助技術が実践できる。 2. 酸素療法と吸引の必要性が理解でき、機器の取り扱いと援助が実践できる。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1 2	排泄援助の基礎知識 1)排尿のアセスメント、排便のアセスメント 2)排泄行動のアセスメント 3)排泄援助の種類(自然排尿、自然排便の援助の種類) 4)排尿障害(尿閉・尿失禁など)・排便障害(下痢・便秘)の種類 排泄援助の基本 1)床上排泄の援助の方法と選択 (尿器・便器の介助、おむつ交換、ポータブルトイレ)	講義	テキスト①②資料
3 4	排泄の援助の実際 1)床上排泄の手順 2)床上排泄に適したポジショニング 3)尿器・便器のあて方 4)おむつのフィットのさせ方 5)ポータブルトイレへの移乗と姿勢保持 5)保温と羞恥心への配慮	演習(技術)	テキスト①②資料
5 6	排尿困難な対象への援助、排便困難な対象への援助 1)導尿の適応と援助時の留意点 (1)一時的導尿 (2)持続的導尿 2)浣腸と摘便の適応と援助時の留意点 (1)グリセリン浣腸 (2)摘便	講義	テキスト①②資料
7	排尿困難な対象への援助の実際① 1)一時的導尿の手順 2)清潔操作	演習(技術)	テキスト①②資料

	3)正しいカテーテル挿入と抜去の方法 4)保温と羞恥心への配慮		
8 9	排尿困難な対象への援助の実際② 1)持続的導尿の手順 2)清潔操作 3)正しいカテーテル挿入と固定方法 4)保温と羞恥心への配慮	演習(技術)	テキスト①②資料
10	排便困難な対象への援助の実際 1)グリセリン浣腸・排便の手順 2)浣腸・排便時のポジショニング 3)正しいチューブ挿入及び浣腸液の注入方法 4)保温と羞恥心への配慮	演習(技術)	テキスト①②資料
11 12	呼吸・循環を整えるための援助 1)酸素吸入療法の援助に必要な基礎知識 (1)援助の目的 (2)酸素投与器具の種類と特徴 (3)援助方法(中央配管方式・酸素ボンベ使用) 2)吸引の援助に必要な基礎知識 (1)援助の目的 (2)吸引の援助の適応と禁忌 (3)援助方法(口腔・鼻腔内・気管内吸引)	講義	テキスト①②資料 * 11 回目 45 分
13 14	酸素吸入療法及び吸引の援助の実際 1)中央配管方式の手順と留意点 2)酸素ボンベを用いた援助の手順と留意点 3)口腔内・鼻腔内吸引の手順と留意点 4)気管内吸引の手順と留意点	演習(技術)	テキスト①②資料
15	技術試験 持続的導尿(膀胱留置カテーテル)	試験(技術)	
16	筆記試験(45 分)	試験(筆記)	
受講上の注意 ○技術の習得に向けて各自で練習を行う。 ○看護機能形態学、基礎看護技術論、日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱの学習を活用する			
使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ②看護がみえる vol.1 臨床看護技術 メディックメディア ③看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 参考文献 ①口から食べる幸せをサポートする包括的スキル 医学書院 ②系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 ③看護機能形態学 第4版 日本看護協会出版会			